

中国における水泳の表象

—「身体をみせること」の問題系—

高橋 俊

1. はじめに

本稿では、中華圏の映画やドラマに出てくる水泳選手の表象について考察し、さらに日本におけるスポーツコンテンツの分析を進め、水泳が孕む問題を明らかにしたい。

2. 中国における「水泳」

中国において、水泳（中国語では「游泳」）とはどのようなものであったのか。日本人がイメージする「水泳」は、「学校のプール」と「海水浴」であろう。日本ではほぼすべての学校にプールが設置されており、病気等のために医師から禁止されているという者以外に、「授業で泳いだことがない」という日本人はほとんどいないだろう。しかし中国の一般の学校でプールが設置されているところはきわめて少ないし、当然水泳の授業もなく、水着すら着たことがないという者が多い。2023年杭州で行われたアジア大会では、中国が全41種目中28種目で金メダルに輝くなど、近年輝かしい活躍が目立つ中国の競泳であるが、それはごく一部のエリートの話であり、国家を挙げて水泳に親しんでいるとはとてもいえない。水泳に限らずどの競技にもいえるが、中国ではスポーツ選手は子供の頃から独自のルートを歩み、「一般」の生徒・学生とはまったく接点がない場合がほとんどである。幼い頃から英才教育が授けられ、隔絶された環境でひたすら練習に励む¹。一方「一般」の生徒・学生は、スポーツや部活などとは無縁の、勉強漬けの生活を送る。日本のように、運動部経験者が珍しくなかったり、あるいはクラスに運動部員がいるのが当たり前という環境とは、まったく異なっている。

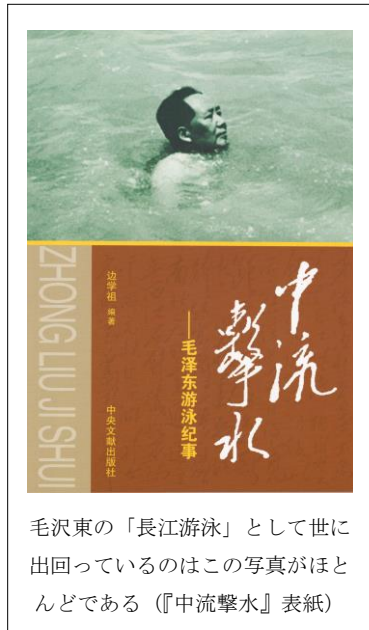
では、海水浴はどうか。中国においては海水浴も一般的とはいえない。そもそも海は長らく、決して身近なものではなかった。今でも、中国人を海辺（高知で

¹ 中国のアスリートのキャリアについては、胡山喬「中国の国策における専業アスリートのセカンドキャリアについて：上海市体育職業学院女子バドミントンチームを事例として」（『大阪成蹊大学紀要』3、2017）を参照。

あれば桂浜)に案内すると、「こんなに近くで海を見るのは初めてだ」と、感嘆の声をあげることが多い。広大な国土を有する中国だが、海岸線、そして海に面している都市は限られている。中国文学と海との関係に関しては、高西成介の研究がある²。六朝志怪小説には海の描写が出てくるが、それはあくまで人々の幻想によって生み出されたものであり、海が現実感を得るのは仏教伝来を待たなければならなかったという。その後、『西洋記』³のような海を舞台にした小説も書かれるが、この作品の海の描写もやはり幻想的な要素が多く、中身は『西遊記』のように「さまざまな異世界に遭遇しながら目的地へ進んでいく」というものであり、海のリアルな描写などはまったくない。

このように、中国において水泳は身近なものとはいえないが、中華人民共和国に入ると、中国人の「水泳観」においてきわめて重要な出来事が発生する。毛沢東の長江水泳（以下中国語表記に拠って「長江游泳」とする）である。

1966年7月16日、当時国家主席であった毛沢東は、長江を泳いで渡る「長江游泳」を行った。この時の毛沢東の「長江游泳」については今も動画サイトで見ることができ、これまでも多くの論考が発表されてきた⁴。当時、毛沢東は劉少奇との権力闘争のさなかにあり、自らの健康、そして「強いリーダー」をアピールする必要があった。後述するように、水泳は他のスポーツに比べ、身体を露わにするという特徴がある。毛沢東は自らの健康アピールにあえて水泳を利用したのも、もちろん彼が幼少の頃から水泳に親しんでいたという理由もあろうが、「身体性」をより発揮できるスポーツであった、ということも大きく関係しているであろう。この「長江游泳」がどの程度功を奏したのかは不明だが、毛沢東は権力



毛沢東の「長江游泳」として世に出回っているのはこの写真がほとんどである（『中流擊水』表紙）

² 高西成介「中世中国の海の認識をめぐって——六朝志怪小説を中心に」（『中国文史論叢』3、2007）。

³ 『西洋記』は正式名称を『三宝太监西洋記』といい、羅懋登が明末に著した長編章回小説であり、鄭和の海外遠征を小説化したもの。全100回。

⁴ 本稿では、高嶋航「文化大革命と毛沢東の水泳」（石川禎浩編『毛沢東に関する人文的研究』京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、2020）、辺学祖編『中流擊水—毛沢東游泳紀事』（中央文獻出版社、2013）をとくに参考にした。

を掌握し（その後の独裁、そして文化大革命を引き起こし）た。この「長江游泳を行う強いリーダー」像は現代中国にも引き継がれており、中高年が自らの健康アピールとして「長江游泳」を敢行することが続けられており、毎年7月16日は毛沢東の「長江游泳」の舞台となった武漢にて「武漢渡河節」が開かれ、選りすぐりの市民たちが「長江游泳」を行っている⁵。

なお、毛沢東が「長江游泳」を行った武漢は、奇しくも新型コロナウイルス（以下「コロナ」と略）の発生地とされた都市であるが、「武漢がコロナに打ち勝った」というアピール⁶に「長江游泳」も使われており、コロナ感染から快復した者が「長江游泳」をやり遂げたというニュースが報道されるなど⁷、「強さ」のアピールとしての「長江游泳」が読み取れる。

一方で、長江について知る者は、「あの長江で泳ぐのか？」と驚くであろう。私は留学中の1998年にいわゆる「長江下り」に参加したが、船の食堂で食事していると、従業員が客の食べ残しを片づけたかと思ったら、残飯から割箸から何かから、一切合切をすべて川に投げ捨てているのを見て、仰天したのを覚えている。また武漢付近の長江は水流が複雑で、泳ぐことは危険が伴い、毎年数名が「長江游泳」により命を落としており、「長江游泳」で検索すると真っ先に「長江游泳」がいかに危険かを解説するサイトがヒットするほどである。実は毛沢東が游泳した時にも、専門家はその水質、そして水流の複雑さを懸念し、思いとどまるよう助言をしたという⁸。それでも毛沢東は游泳を決行したのだが、医師の助言にもためらうことなく「長江游泳」を敢行し、やり遂げた、というストーリー自体が、「強いリーダー」像の確立を目指す毛沢東のセルフプロデュースだったのかもしれない。そしてそのような強いインパクトが「長江游泳」にはある、といえるのだろう。

⁵ 「千人横渡长江场面重回武汉渡河节」（『新華社体育』2023年7月16日 http://www.news.cn/politics/2023-07/17/c_1129753061.htm/ 2023年10月14日最終閲覧。なお本稿のインターネットサイトからの引用の最終閲覧日は全て同日である）。なおコロナ感染拡大のさなかの2020年12月13日には、武漢より上流に位置する重慶において、中国全土から1500名が参加しての「長江游泳」が行われた（「挑战严寒！1500名冬泳爱好者“横渡”长江」https://www.cqcb.com/hot/2020-12-14/3414782_pc.html/）。

⁶ これについては、周笠軒「「武漢精神」の表象—新型コロナウイルス感染拡大期を中心に—」（『国際社会文化研究』23、2022）で詳細に論じられている。

⁷ 「武汉—新冠肺炎重症患者康复后横渡长江，打破自身纪录」（https://m.thepaper.cn/baijiahao_7474905）。

⁸ 前掲高嶋「文化大革命と毛沢東の水泳」。

3. 中国映画やドラマに見える水泳選手

さて、近年（2010年代中盤以降）の中華圏のドラマや映画を見ていると、主人公として水泳選手が設定されているものが多いことがわかる。

たとえば、『你的婚礼』（2021 日本未公開）。この映画は大ヒットした韓国映画『너의 결혼식（邦題：君の結婚式）』（2019）のリメイクである⁹。高校で出会った男女が別れと出会いを繰り返す、ラストで別の男と結婚することになった女主¹⁰の結婚式に男主が出席し、幸せになってほしいと告げるシーンで幕を閉じる。



『你的婚礼』劇場版ポスター

『你的婚礼』は『너의 결혼식』を細部に至るまで忠実に再現しており、「この場面もそっくりそのままなのか」と驚くほどなのだが、両者の大きな違いとして、男主が競技するスポーツがある。『너의 결혼식』では、男主が高校でスポーツをしていたという描写はなく、大学入学後にアメリカンフットボールを始めている。一方『你的婚礼』の男主は高校時代から水泳選手であり、大学入学当初は女主を追ってチアリーダー部に入ったが、失恋をきっかけにふたたび水泳に打ち込むことになる。そして二作品に共通する大きな山場である「落下物から女主をかばって男主が怪我を負う」シーンにおいて、『너의 결혼식』では男主の怪我の代償が「翌日の教員採用試験を受けられなかった」なのに対し、『你的婚礼』では「水泳選手としてのキャリアが終了した」となっている。両者を比較した場合、『你的婚礼』のほうが男主が失ったものが大きく、絶望もより切実なものとなり、二作品に共通する男主のセリフ「あいつ（女主）に出会わなければよかった」に説得力が増す（二作品とも、このセリフを聞かれたことによって、男主は女主に最終的に別れを告げられてしまう）。そして二作品とも、男主は体育教員を職業に選ぶが、『你的婚礼』では水泳部の顧問として後進の育成に尽力しており、水泳選手であったという設定が活きるストーリーになっている。

また、インターネットドラマとして人気を博した『致我們單純的小美好（邦題：

⁹ インターネットで見える限り、『你的婚礼』の中国国内での評判は低く、観客数も今一つで、「韓国のものに速く及ばない」という評価が多いが、韓国国内では却って評判がよく、観客数も上位なのが興味深い（「韩影票房：《碟中谍》夺冠 许光汉《你的婚礼》第3」<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1771639243502767596/>）。

¹⁰ 本稿では、「男性主人公」「女性主人公」の略称として「男主」「女主」をあてる。

ツンデレ王子のシンデレラ。以下『ツンデレ』と略』(2017)は、高校から大学、社会人となるまでの男2女1の三角関係を描いたドラマであるが、ヒロインに思いを寄せる男主の1人が水泳選手である。彼は特待生として、市内でも有数の進学校に転校してきたが、これまでの人生ではひたすら水泳に打ち込んできて、勉強は一切できず、高校に籍だけを置くために転校してきた。やがて彼は中国を代表する競泳選手となり、数々のCMに出演するスターとなる(が、女主はもう一人の、初恋の相手である「ツンデレ」男主を選ぶ)。

ドラマ『游泳先生』(2018)は、男主はすでに競泳のスターであり、セレブな生活を送っている。冒頭では国際大会に出場し、勝利するシーンが置かれるが、祝賀パーティの席上で不祥事を起こし、転落する。そこから女主の支えで這い上がるストーリーである。

ドラマ『原来是你』(2022)は、男子水泳選手と女子柔道選手がキャンパスで繰り広げる恋愛劇である。男主は中国水泳界期待の若手であり、オーストラリアに留学していたが、挫折して中国に戻り、大学の水泳部で再起を期して練習に励んでいる。

ドラマ『浪花一朵朵(邦題:キミとスプラッシュ Kiss～はじける気持ち～)』(2017)は、新聞記者の女性と大学生水泳選手の男性との恋愛ドラマである。ドーピング疑惑をかけられた男主が、女主の支えにより復活を遂げる。

また台湾のものでは、歌手の周興哲が男子高校生に扮したことで話題になった映画『我吃了那男孩一整年的早餐(邦題:今日も彼の朝ご飯)』(2022)の男主が水泳選手である。映画のプロモーションでは、プールに落ちた女主を男主が助けるシーンが使われている。

中国のスポーツドラマは、元はサッカーを題材にしたものが多かった¹¹。しかし上記のように、2010年代中盤以降は、競技は水泳に集中している¹²。

これらの映画やドラマに共通するのは、「スポーツ界の厳しさ」が強調されている点である。多くのドラマで厳しい訓練が課され、目指されるのはナショナルチ



『浪花一朵朵』DVD

¹¹ 「中国でサッカーを題材にしたドラマ・映画ブームが到来」(『人民網日本語版』2015年4月23日 <http://j.people.com.cn/n/2015/0423/c94473-8882747.html>)。

¹² 近年は、『夏蟲可語冰』(2022 カーリング) や、『冰球少年』(映画版2020、ドラマ版2021 アイスホッケー) などのマイナースポーツも取り上げられるようになっていく。

ーム入りである¹³。そして選手（登場人物）たちはみな、自らを律し、ストイックに練習に励む者として設定されており、後述する日本の水泳モノにおけるチャランポランなキャラクターたちとは一線を画す。しかし、それは往々にして「スポーツの練習の不合理性」と紙一重である。『ツンデレ』では、選手（男主）の父親がコーチであり、息子をひたすら練習に打ち込ませ、女主への恋愛感情など有害だと言い放ち、女主に「うちの息子に近寄るな」と言い捨てる（後に男主と父親は和解する）。

一方で、選手の華やかな生活が描かれるのも特徴といえるだろう。上記のように、『游泳先生』で男主はセレブな生活を送っているし、『ツンデレ』の男主も CM に引っ張りだこである。日本だと「お金持ち」のイメージはあまりない水泳選手であるが、中国では経済的な成功が約束された存在としてイメージされている。

次章では、中国の水泳選手のこうしたイメージの源流を探る。

4. 中国における水泳選手イメージの源流

中国の水泳イメージは、2 で述べたように毛沢東の影響が大きいのが、2010 年以降は、ある 1 人のアスリートが大きな影響を与えている。孫楊である。

彼は 1991 年、バスケットボール選手だった父とバレーボール選手だった母との間に生まれた。孫楊とは両親それぞれの姓である。2008 年、17 歳で出場した北京オリンピックでは 1500m 自由形で 8 位になり、2010 年の広州アジア競技大会では同じく 1500m 自由形で金メダルを獲得する。翌年上海で開催された世界水泳では同競技で世界記録を 10 年ぶりに更新するタイムで金メダル、2012 年ロンドンオリンピックでは 400m 自由形でオリンピック記録のタイムで金メダルを獲得、1500m 自由形では、今度は世界記録で金メダルを獲得した。そのルックスもままって、孫楊は国民的なスターとなった。

水泳選手として素晴らしいキャリアを築いてきた孫楊であるが、ここから彼のキャリアはドーピングにより暗転していく。2014 年の国内大会で禁止薬物の使用により 3 ヶ月の出場停止処分を受けたが、2018 年には、杭州にある彼の別荘にドーピングの抜き打ち検査に訪れた世界ドーピング防止機構（WADA）の検査官に対して、一旦は血液サンプルを提出したものの、「検査チームの身分証に不備がある」として検査官からサンプルを奪い、ボディガードがハンマーで破壊するという行為に出る。国際水泳連盟（FINA）は孫楊の言い分を認め、口頭での注意に留める裁定を下したが、WADA はそれを不服としてスポーツ仲裁裁判所（CAS）に

¹³ 『原来是你』では、厳しい練習を行う水泳部と緩い柔道部が、対比的に描かれている。

提訴。聴聞会の結果、2020年に8年間の資格停止処分が下される。その後審理は差し戻されたが、2021年に4年の資格停止処分が確定し、彼の競泳選手としてのキャリアは事実上終了した¹⁴。

こうした一連のドーピング疑惑に対し、中国国内では当初から「これは欧米の中国敵視からくる冤罪であり、孫楊はその犠牲になったのだ」という見方が一般的であった。中国スポーツ界の英雄である孫楊は、欧米諸国による中国叩きのスケープゴートになったのだ、という意見は中国国内で根強く、上記のドーピング疑惑に関しても、中国国内のサイト、たとえば「百度百科」などにはほとんど記されていない¹⁵。スポーツ界において、中国は卓球やバドミントンなどで無類の強さを誇り、お家芸といわれるが、これらは世界的な人気競技とはいえない。一方、世界的な人気を誇り、中国でも「観るスポーツ」として人気のあるサッカーやバスケットボールなどの球技で、中国は世界のトップから大きく遅れを取っている¹⁶。水泳で世界のトップ選手となった孫楊は、英雄といえる存在なのである。

孫楊は、現役当時から実質的に引退した今に至るまで、多くの企業の広告に出演し、セレブとしての生活を送っており、「もしテレビ司会者になったら数億元を稼ごう」といわれている。2022年には元新体操選手の張豆豆と結婚した。上述のドラマにおける「セレブな生活を送る水泳選手」像は、明らかに孫楊がイメージされている¹⁷。水泳選手の登場するドラマや映画は、みな2010年代中盤から



孫楊・張豆豆夫婦
(孫楊の微博より)

¹⁴ 孫楊に関しては、THE DIGEST 編集部「やっぱり汚れた英雄？ “中国競泳界の巨星”孫楊はなぜ世界を敵に回してしまったのか」(『THE DIGEST』2020年12月26日、https://thedigestweb.com/topics_detail13?id=31824/) が、彼の水泳キャリアを詳細にレポートしている。

¹⁵ 『キミとスプラッシュ Kiss』で男主にかけられたドーピング疑惑には、間違いなく孫楊がイメージされているだろう。

¹⁶ 中国における「観るスポーツ」の一番人気はサッカーだが、中国男子ナショナルチームは2023年10月14日時点で世界ランク80位であり、ワールドカップも2002年の日韓大会(予選リーグ敗退)が2023年時点で唯一の出場である。一方女子はワールドカップ本大会出場を逃したのは9大会中1回(2011年)のみであり、1999年には準優勝に輝いている。

¹⁷ とはいえ、2013年には無免許で繰り返し車を運転していたとして7日間拘留された上で罰金2000円を支払った、という事件によるイメージダウンもあり、中国人の評価も「賛否両論」のようではある。

現在（2023年）に製作されたものであり、孫楊の活動期間と重なる。ドラマに登場する水泳選手は、（俳優なので当然とはいえ）みな涼やかな顔のイケメンばかりであり、多くの中国人視聴者はそこに孫楊の姿を投影していると思われる。

ところで中国のスポーツ界には、孫楊に限らず、ドーピングのイメージがつきまとう。1990年代、陸上競技において「馬軍団」が世界を席卷した。コーチの馬俊仁は陸上の経験は皆無であったが、その教え子たちが世界の大会で大活躍し、中国では「向馬家軍学習（馬軍団に学べ）」がキャッチフレーズとなった。しかし2000年代になると、数々のドーピング、そしてハラスメントを行っていたことが発覚し、「禁止薬物の服用を強制された」「馬俊仁自らが自分に注射を打った」などの内部告発が頻出して、馬俊仁の評価は地に落ち、2004年に陸上界から完全に引退することを宣言した。一方、90年代に馬軍団の疑惑を告発した中国人ルポライターの著作から、該当部分を当局が削除するなど、ドーピング（と隠蔽）が「国家ぐるみ」であったことが疑われている¹⁸。

『游泳先生』の第1話には、主人公が世界大会で優勝し、その祝賀パーティの席で、自分の出自をからかったアメリカ選手を殴るシーンが置かれる。この行為により、主人公はスポンサーに降りられ、父親に詰られる。これは欧米による「冤罪」で選手としてのキャリアを奪われた孫楊の姿にもつながるし、さらに大きな視点で見れば、ブルース・リー（李小龍）が『精武門（邦題：ドラゴン怒りの鉄拳）』で、自分たちをバカにした日本人を叩きのめした姿も想起されよう。中国に受け継がれる「欧米や日本にバカにされる我々」という自画像は、近年においても繰り返し現れ、「炎上」となって噴出している¹⁹。中国ドラマの「水泳選手」のイメージには、こうした自画像が投影されているといえるのではなかろうか。

5. 現代中国の学校におけるスポーツ

前述のように、中国では、日本の小中高で行われているような部活動や課外活動はありえない。朝から晩まで勉強漬けの生活を送っており、部活動に割く時間などないし、親や教師は「部活などをやる暇があったら勉強しろ」という。一方上記のように、中国のスポーツ選手たちは子供の頃から英才教育を受けてきたエリートであり、「一般」の子供たちとは完全に隔絶された環境で練習に励む。上で

¹⁸ 北村豊「「馬軍団」ドーピング疑惑、19年後の“真実”（『日経ビジネスウェブ版』2016年2月26日 <http://business.nikkei.com/atcl/opinion/15/101059/022300040/>）。

¹⁹ 吉見憲二「中国における炎上事例の一考察」（『情報経営』83、2022）。また拙稿「日本のイメージ・中国のイメージを中国映画から見てみよう」（高知大学松尾國彦基金図書刊行会『越境する人と文化』リーブル出版、2007）も併せて参照されたい。

も触れたように、『ツンデレ』の男主は有名進学校に転校してくるが、勉強など一切したことがなく、簡単な英単語もわからない「水泳バカ」という設定である。日本のアニメなどで描かれる部活動は、中国の若者にとってはきわめて羨ましいものとして映るようで、「こういう高校生活が送れなかった自分は青春をムダにした」としばしば語るし、私が授業の雑談で「小中学校では野球部、高校ではハンドボール部に所属していた」と話をすると、中国人留学生に「へえ、それでよく大学に入れましたね」と驚かれる。中国でも大ヒットした『スラムダンク』や『けいおん!』も、ストーリーはもちろんだが、部活動に勤しむ若者たちの姿が人気を呼んだといわれる²⁰。また、体育の授業はあるが「出ても出なくてもよく、出ない者は教室で勉強していた」「運動会もあるにはあるが、これも出ても出なくてもよく、一部の者以外は教室で勉強していた」等々、中国の一般の生徒は「やるスポーツ」とは縁遠い生活を送っている。



中国では、大学のスポーツ選手の多くは体育大学（「体育学院」という名称であることが多い）に所属し、ひたすら練習に明け暮れている²¹。北京大学や清華大学のような一般の大学も体育学部を設けているが、一般の学生とスポーツ選手が同じ授業を受ける、ということはほとんどないようである。また、中国の大学は基本全寮制であり、門限が設けられ、出席などの生活指導で特別の職員が置かれるなど管理されている²²。スポーツ選手はさらに管理が厳しく、「一般社会」との接触はほとんどない²³。

中国のスポーツドラマには、度を越したような荒唐無稽なシーンがしばしば登場する。『你的婚礼』では、大学のチアリーダーだった男主が、急にサッカーの試

²⁰ 「Liyuu の人生を変えた『けいおん!』のセリフ 勉強一筋の学生時代に、夢を見つけた理由は…」 (<https://grapee.jp/1053371>) において、上海出身のコスプレイヤー・Liyuu は「中国では『けいおん!』で描かれているような、みんなで集まって好きなことをする放課後活動というものがないんです。なので、すごく惹かれました!」と語っている。

²¹ 『キミとスプラッシュ Kiss』では男主は南洋体育大学という架空の大学に所属している。『原来是你』では男主が国際貿易学部の授業に出席しているシーンがあり、所属しているのが総合大学であることがわかる。

²² 福島美雪『中国の大学生の就職難に関する研究』（高知大学 2016 年修士論文）。

²³ 前掲胡山喬「中国の国策における専業アスリートのセカンドキャリアについて」。

合に乱入し、シュートを決める、というシーンが差し挟まれる。スポーツ経験者の多い日本では、こうしたシーンは「あり得ない」と一笑に付され、コメディにすらならないだろうが、中国においては「(物語なら) ありえること」なのかもしれないし、キャンパスにおける「スポーツ選手と一般学生との恋愛」の物語同様、「ファンタジー」として受け入れられている、といえるだろうか²⁴。

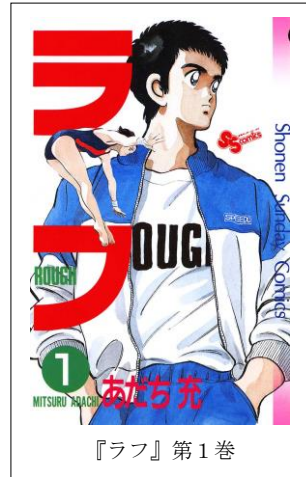
6. 日本のスポーツコンテンツにおける水泳

最後に、日本におけるスポーツコンテンツにおける水泳モノの位置を確認する。

日本において、スポーツドラマ、あるいは映画で、印象に残るものはさほど多くはない。必ず言及されるのはドラマ『スクール・ウォーズ』(1984)であり、私も印象深い、「スポーツドラマランキング」の類い²⁵を見ても、それ以外に印象に残っているものは少ない。

日本におけるスポーツコンテンツといえば、なんといってもアニメと漫画であろう。野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、テニス、ゴルフなどの球技を中心に、柔道やボクシングなどの格闘技、そして陸上、サイクリングなど、描かれるスポーツは多岐にわたる。「【2023年】スポーツ漫画のおすすめ人気ランキング 50選」²⁶というサイトでは、50作品のうち野球 11、サッカー 8、バレーボール・テニス 4、バスケットボール・柔道 3、自転車・ダンス・バレエ 2、アメフト・カバディ・ゴルフ・パドミントン・スキューバダイビング・フィギュアスケート・ボクシング・なぎなた・弓道・水泳・相撲 1と続く。

水泳はこれまで、スポーツモノで取り上げられることが少なかった競技であるといえる。理由として、競技中の物語要素が少ないという点が挙げられるだろう。球技や格闘技での、試合における相手(敵)との戦いという盛り上がり要素が、水泳(や陸上など)には存在しない。また、チームメイトと時には反目しながら



²⁴ 中国のスポーツ映画という括りでもっとも有名なのは『少林足球(邦題:少林サッカー)』(2001)であろう。この映画の荒唐無稽さは、たとえば『キャプテン翼』などの「あり得なさ」とは次元の違うものであり、おそらくは製作者が普段サッカーに親しんでいない(競技経験が一切ない)からこそ出せたものであろう。

²⁵ 「50人に聞いた! スポーツドラマおすすめ人気ランキングベスト 36」(https://saru.co.jp/tvmaga/sports_drama_027/)。

²⁶ <https://my-best.com/1663>

も力を合わせて敵を倒す、という友情の要素も、水泳では練習にしか存在しない²⁷。これらの理由で、日本のスポーツモノにおいて、水泳は傍流に置かれてきたのであろう。

日本の水泳モノには、あだち充の漫画『ラブ』（1987~89）があり、映画には『バタアシ金魚』（1990）や、部活ではないが『はい、泳げません』（2022）がある。また競泳ではなくシンクロナイズドスイミングには『ウォーターボーイズ』（映画 2001、ドラマ 2003）があり、近年においてはアニメ『Free!』（2013~）がある。



『Free!』HPより

多くの水泳モノには、競技の特性にかかわるコメディ要素、すなわち「泳げなかった者が泳げるようになるために奮闘する」という要素が加えられているのが特徴である。そしてもう一つの「コメディ」の要素は、競技の性質に大きく関わっている。すなわち、「肌を晒す」ということである。

本稿を書くために、以前愛読していた『ラブ』を改めて読み返してみたが、今から30年以上前の作品であるということ差し引いても、「あり得ない」ストーリーであった。全編にわたり「男子生徒が女子寮や更衣室に潜入し、女子生徒の着替えを覗こうとして、見つかって叱られたり殴られたりする」という「コメディ」が頻発し、読み進めるのが辛かった。あだち充の作品におけるベストに上げる者も多い同作品だが²⁸、現在の基準では、「覗き」のシーンが頻発するこの作品を評価することはできないだろう。

近年の作品、たとえば『Free!』では、さすがに「覗き」シーンは見られないが、女主（水泳部女子マネージャー）が男主（スイマー）の水着姿に対して、幾度となく「なんて素敵な上腕三頭筋！」というセリフを述べる。また男主たちが水泳部を創部しようとするとき、「顧問（女性教師）の水着が見られる」を売りにして男子生徒を勧誘しようとする（「女子部員の水着姿が見られるから水泳部に入部する」という設定は『バタアシ金魚』や『ラブ』も同様）。「俳優の水着シーン」は水泳ドラマや映画における宣伝の定番であり、『はい、泳げません』では長谷川

²⁷ 『ドカベン』にしる『キャプテン翼』にしる『スラムダンク』にしる『ハイキュー!!』にしる、そのエッセンスは「男同士の友情」である。最初は反目し合っていたチームメイトが「勝つ」という目的のために団結し、友情を育てていく、という典型的なストーリーは、日本的な成長物語といえるだろう。「友情」「努力」「勝利」。ボクらは『少年ジャンプ』から学んだ。』『The New Masters TOKYO』2018年7月3日 <http://www.joqr.co.jp/nmt/special/2018/07/post-99.php> 等。

²⁸ 『Quick Japan』62（2005）、p.103。

博己や綾瀬はるかの水着シーンが話題となった²⁹し、『你的婚礼』では女主役の章若楠の（ストーリー上必要とは思えず、唐突に差し挟まれる）水着シーンが話題となった。また、演じる俳優にも、ルックスのみならず肉体の美しさも求められる。映画やドラマに出てくる俳優たちは、当然ながら、みな見事な肉体美の持ち主であるし、そうでなければ水泳選手を演じるのは難しいであろう³⁰。

水泳という競技には、つねに「性的」なイメージがつきまどってきた。学園生活を扱ったコンテンツでは、男性向け／女性向けに限らず、「授業での水泳」のシーンが置かれることが多い³¹が、それは読者に対して登場人物の水着姿を提供する「サービス」であるとされる。一方、そうした性的な視線が自分に向けられると、それは「苦痛」へと変化する。前述のように、ほとんどの日本人は学校の授業で水泳を経験しているだろうが、その時間が苦痛であったという者も多いだろう。その理由は、泳ぐこと自体が嫌というよりも、水着姿を人前に晒すことの恥ずかしさに由来する部分が大いのではないだろうか。思春期において（もちろん大人でも）、男女ともに、水着姿を人前に晒すことに大きな抵抗があることは、疑いを得ないだろう³²。

「身体を人前に晒すこと」には、二つの主張がある。一つには、「美しい身体を他人に見せることは何もおかしいことではない」という主張。自らの肉体を美しく鍛え、みんなに見てもらって賞賛されたい、という欲求を否定することはできないし、するべきでもない、と。もう一方には、「肉体・性の商品化」を問題視する主張。身体を人前に晒すという行為は、仮に本人が同意し、望んだものとしても、肉体を商品化するという観点から、許されるべきではない、と³³。この両者

²⁹ 「綾瀬はるか、『競泳水着写真』公開で浮上した“長谷川博己のバストタッチ”疑惑！」（『アサヒ芸能ウェブ版』 <https://www.asagei.com/excerpt/206986>）。

³⁰ 『游泳先生』の動画サイトには、「男主の身体は水泳選手には似つかわしくない」という「批判」のコメントが散見された。

³¹ 思いつく例は、よしながふみ『フラワー・オブ・ライフ』（2003~2007）である。BLを意識しているであろうこの作品では、授業の水泳のシーンが差し挟まれ、男性キャラクターたちの水着姿が描かれている。

³² 上野耕平「ラッシュガードの着用が中学生の水泳授業に対する好感度に及ぼす影響—水着着用に関わる生徒の心理的問題に注目した検討—」（『スポーツ産業学研究』31-2、2021）。また坂本拓弥『体育がきらい』（ちくまプリマー新書、2023）でも、水泳には触れられていないが、身体性の観点から体育の授業への嫌悪感を分析している。

³³ 田中東子「スポーツする少女たちの身体とそのゆくえを「第三波フェミニズム」の立場から考える」（『スポーツ社会学研究』24-1、2016）、高峰修「男性学からみたスポーツをめぐる「女性の商品化」問題」（『スポーツ社会学研究』27-2、2019）等を参照。またこの「性の商品化」に対する「男性による女性の搾取」と「職業や表現の自由」との関係については、香山リカ・北原みのり『フェミニストとオタクはなぜ相性が悪いのか「性の商品化」と「表現の自由」を再考する』（イースト・プレス、2017）、スポーツに関しては山口理恵子「スポーツ・ジェンダー研究の「他者」について：「アイデンティティの政治学」という観点から」

(77)

は近年多くの場面で衝突しており、2023年6月には、埼玉県営プールでの水着撮影会が大きな議論を巻き起こした。公的施設で性的なポーズを取らせ、それを撮影することへの批判が寄せられた一方で、「成人である被写体が同意の下で撮影会を行っているのだから何も問題はないはずで、それを中止させるのは不当である」という擁護の声も多かった³⁴。

先に中国における水泳の特殊性について述べたが、日本においても、水泳は特別な競技である。戦後、日本のスポーツ界が国際大会に復帰する際、その先頭に立ったのは水泳であった。古橋広之進が国内大会で世界記録を次々に更新しながら、日本が国際水泳連盟に未加入であることから正式な記録としては認められなかったことにより、加入が強く望まれた。そして1949年、各競技のトップを切って、日本水泳連盟の国際水泳連盟への復帰が認められたのであった³⁵。このような重々しい伝統を有しながら、一方では、たとえば生徒の水着姿の盗撮事件などは後を絶たない³⁶。「水着」で検索すれば、数え切れないほどの性的なコンテンツがヒットする。

水泳をめぐる問題系は、きわめて複雑である。これらを解きほぐし、整理した上で、改めて議論することが、今後の課題となる。

7. おわりに

中国の映画やドラマには、これまで多くの制限が加えられていた。たとえば、「早恋（早期の恋愛）」の禁止。中国では、勉学に集中するため、高校までは恋愛が禁止とされており、もし見つければ、親や教師から厳しく叱責される。映画やドラマでも、高校生の恋愛が発覚してクラスのみみんなの前で教師から叱責されるシーンがしばしば登場し、また「早恋」の相手と最後には結ばれないストーリーにすることで「戒め」としている、といわれていた。そもそも、日本においては定番中の定番である「高校時代の恋愛」コンテンツは、中国においては長らく皆無といってよく、中国のドラマにおける主流は「時代劇」や「現代家庭劇」、そして「抗日劇」であった。しかし2010年代になると、徐々に「学園劇」、しかも高校における若者たちの青春群像を描いたドラマが登場するようになった。『ツン

（『スポーツとジェンダー研究』6、2008）、「女性アスリートによる「性の商品化」をめぐるスポーツ規範と「構成的外部」」（『年報社会学』18、2005）を参照。

³⁴ この「炎上」については、<https://togetter.com/li/2164633/> 等でまとめられている。

³⁵ 浜田幸絵『〈東京オリンピック〉の誕生—一九四〇年から二〇二〇年へ—』（吉川弘文館、2018）pp.132-135。

³⁶ 「教室で水着に着替える児童を盗撮、春から勤務したばかりの小学校担任を懲戒免職」（『読売新聞オンライン』2023年8月29日）。

『デレ』は、高校時代の恋愛対象と最後に結ばれるが、「どうせいつか別れるだろう」と思って見ていた私は、その結末に驚いたものだった。本稿で論じてきた水泳モノも、すべて恋愛と結びついており、「挫折した水泳選手の男主を癒す女主」がストーリーの主旋律である。さらに、これまでとくに女性が人前で肌を晒すなど考えられない、と思われてきた（そうした価値観に縛られてきた）中国だが、劇中においては俳優の水着姿が頻繁に登場する。こうした変化をどのように評価すべきか、「高校生の恋愛の解禁」や「肉体を晒せるようになったこと」を「進歩」と捉えるのか、それとも「女性の男性への従属」「身体の商品化」という意味ではむしろ「後退」といえるのか、議論は尽きない。今後さらなる研究を進めるつもりである。

(たかはし・しゅん 本学教授)